

## 第6章 今後の取組

子どもたちの「わからない」「できない」を「わかった」「できた」という実感につなげる取組が進められるよう、県教育委員会では、「全ては子どもたちのために」という強い思いで、広域教育行政の立場から創意工夫した取組を進め、より一層市町と連携しながら学校・家庭・地域の取組を支援してまいります。

### 授業改善に向けた取組

#### (1) 「めあての提示」と「振り返る活動」の効果的な実施

「めあての提示」では、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや提示のタイミングを工夫することで、子どもに思考の見通しを持たせることが重要です。その際、子どもが授業中にめあてを絶えず認識できるよう、必ず板書することが大切です。

「振り返る活動」では、「何がわかったか」「何ができるようになったか」を学習内容に沿って子ども一人ひとりに記述させます。教科や単元に応じて、文章、図、計算など多様な方法があります。文章で記述する場合は、書き出しを与えてその後を書かせたり、キーワード（重要語句や公式、なかまの考え）を使って書かせたりするなどの工夫が考えられます。

#### (2) 「校長の授業の見回り」の効果的な実施

「校長の授業の見回り」では、参観の視点（子どもの様子、授業規律、「めあての提示」と「振り返る活動」の内容、発問・指示、板書など）を持って1時限を通じた授業観察を行うことが効果的です。授業後には、授業者が意欲的に取り組むことができるよう具体的にアドバイスを行うことが大切です。

#### (3) 国の調査官による授業改善研修会の実施

子どもたちの実態に応じた習熟度別やTTなど、効果的な少人数指導についての授業公開を伴う実践的な研修会を、国の調査官を招へいし実施します。

### 各学校の課題に応じた学-Viva!!セットとワークシートの活用

本県の課題に対応した学-Viva!!セットやワークシートを提供していきます。各学校においては、全国学調の結果分析から明らかになった課題に応じて計画的に活用してください。なお、授業における繰り返しの指導、家庭学習、補充学習での活用が効果的です。

### みえスタディ・チェックの活用による検証と改善

みえスタディ・チェック実施後、自校採点を行い、その結果を授業改善サイクル支援ネット（以下「支援ネット」という。）に入力することで、リアルタイムに、各学校では設問ごとに自校と県の正答率が比較できます。このことにより、子どもたちのつまずきを把握し、授業改善や個に応じた指導につなげることができます。

県教育委員会では、設問ごとに対応したワークシートを支援ネットで提供していますので、子どもたちのつまずきに応じて活用し、課題の克服につなげてください。

### 経年的な課題を克服するための取組

子どもたちに見られる経年的な課題として、国語では「引用したり要約したりして書くこと」「根拠に基づいて自分の考えを書くこと」、算数・数学では「割合」「図形」につまずきがあります。

子どもたちがこれらのつまずきを克服できるよう、学習内容における各学年の系統性や子どもにつまずきに対応した指導のポイントを示した資料を配付しますので、授業改善につなげられるよう活用してください。

また、理科では「観察・実験の技能（実験器具の名称や操作方法等）」「科学的な用語（蒸発等）」「濃度、圧力、電気等の計算（質量パーセント濃度の問題等）」につまずきが見られました。これらの課題に対応したワークシートを提供していますので、繰り返し活用してください。また、平成24年度と27年度の全国学調の問題をワークシート化して提供していますので、あわせて活用してください。

### 家庭学習の支援（宿題用学-Viva!!セットの配付）

子どもたちの家庭学習の時間が短いという課題を踏まえ、家庭学習に自主的に取り組めるよう、自分の力で解けるヒントを掲載したワークシート（宿題用学-Viva!!セット）を配付しました。ワークシートは、国語では漢字や言葉の使い方、算数・数学では四則計算や図形の基礎的な問題を中心に作成していますので、家庭学習や補充学習で計画的に活用してください。

### 家庭・地域への情報発信

みえの学力向上県民運のチラシの配布を通じて家庭・地域へ周知・啓発を行います。チラシでは、全国学調の結果概要について、子どもたちの学習状況や自尊心の高まりとともに、スマホの使用時間が長いことや家庭学習の時間が短いこと、自主的な読書の時間が短いという状況を伝え、学校・家庭・地域それぞれの役割に応じた取組を呼びかけています。

### <参考> 「子どもの問題は、大人の問題」です。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばして支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成28年度からの4年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組みます。

（「みえの学力向上県民運動 基本方針」より一部抜粋）

### <参考>

「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」(<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>)

#### ○基本方針

・県民運動の趣旨等をご覧ください。

#### ○生活習慣・読書習慣チェックシート

・ご家庭でダウンロードして活用していただけます。

#### ○みえの親スマイルワーク

・「みえの家庭教育応援プラン」に基づき作成された、学級・学年の懇談会、PTAの行事などの機会や、地域のサークルや企業内での集まりなど、研修会や学習会だけでなく、さまざまな場面で活用していただけるワークを掲載しています。